Construction business

事業の概況 建築事業



取締役 専務執行役員 建築事業本部長 **藤沢 正宏**

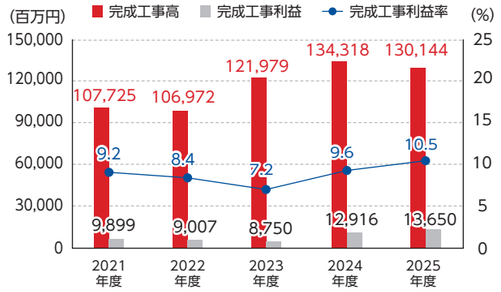
建築部門においては、中期３ヵ年計画に基づき、受注プロセスの強化を目指し、受注と施工のバランス確保に向けた施策の実行と提案力、競争力のさらなる強化に努めています。DXの推進による生産性の向上として生成AI、BIM、経費や請求書関連そして労務安全業務のシステムを導入し、作業所における働き方改革を進め、作業所4週8閉所を実行いたします。また、淺沼組で働く社員が自らのキャリア形成に資する教育制度の充実を図り、活力ある職場環境の醸成にも取り組んでいます。

お客さまの顧客満足度の向上には、ASANUMA品質の確保およびさらなる向上が必要であり、さまざまな施策を実践し、品質確保強化に取り組んでいきます。また、注力事業としているリニューアル事業では淺沼組のオリジナルブランド「ReQuality」を推進し、さまざまな環境技術の開発やブラッシュアップにより環境施策であるエコフレンドリーASANUMA21の推進に貢献していきます。

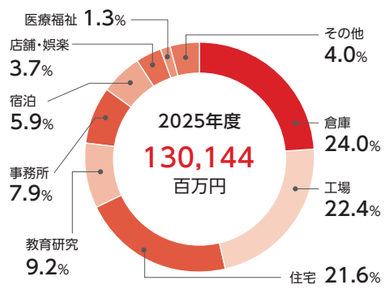
事業概要

倉庫・物流施設、工場、医療・福祉施設、住宅、教育機関、事務所・庁舎、店舗、宿泊・娯楽施設などさまざまな新築工事をはじめ、リニューアル「ReQuality」事業に取り組み、耐震や免震といった防災技術やZEB/ZEHなどの省エネルギー関連技術を含めた環境配慮技術や建物の寿命を伸ばす長寿命化技術などの提案・採用を推進しています。また、昨年設置したGOOD CYCLE SERVICE部を中心に調査・診断、維持管理を行い、建物ライフサイクル全般にわたってお客さまに寄り添ったさまざまなサービスを提供しています。

● 完成工事高・完成工事利益（率）（単体）



● 完成工事高 用途別内訳（単体）



中期3ヵ年計画の主な施策

国内コア事業の強化	● 受注と施工のバランス確保 ● フロントローディングの実施 ● 注力得意分野の追求と開拓 ● 協力会社との協働強化 ● 顧客満足度向上に向けたASANUMA品質の確保・向上 ● 作業所支援体制のさらなる強化
リニューアル事業の強化	● 「ReQuality」の受注確保 ● GOOD CYCLE BUILDINGの推進 ● GOOD CYCLE SERVICEの拡充
人材の獲得・確保・育成	● キャリア形成に資する教育の実施 ● 働きやすい職場環境の構築
DX推進	● ICT関連システムの活用と導入推進
環境・社会への貢献	● エコフレンドリーASANUMA21の推進



● リニューアルブランド「ReQuality」 ～環境に、人に、経済に。よい循環を生むASANUMAリニューアル～

2021年に当社のリニューアル事業のコンセプトを表す総称（ブランド）として「ReQuality」を立ち上げました。主たる事業である国内建設市場の中長期的な見通しは、人口減少が続き建設投資の拡大は見込めない状況です。しかし、そのようななかでも近年、ストックの増加を背景とした維持修繕需要は堅調に推移しており、国内建設投資に占める割合は今後も拡大すると見込まれ、リニューアル事業の強化は重要な課題と考えます。

建物の寿命を延ばす長寿命化技術から、快適性を維持しながらランニングコストを抑える省エネ技術、認証取得につながる空間ヘルスケア技術や、時代が求める脱炭素やサステナビリティに対応する技術まで、さまざまな技術を活かしながら建物の価値を高めるリニューアルが、淺沼組の「ReQuality」です。

環境に、人に、経済に。私たちは、よい循環を生み出します。

● 当社名古屋支店改修プロジェクト







Q なぜリニューアル事業に注力するのか

1 環境配慮・モノへの愛着に対する社会的意識の高まりに応える

新築に建て替える場合は建物の躯体を含めてすべて壊し、新たに建物を建てます。一方、リニューアルは躯体を残したままそれを活かして建築を行うという観点から、CO_2削減などの環境保全に寄与しています。また、省エネ・脱炭素社会への対応として、断熱性能の向上や再生可能エネルギーの導入が企業にも求められており、通常の外壁改修だけではなく、その分野での提案も今後は求められてくるものと考えます。そして、近年はモノを長く使い続けることの価値やモノへの愛着の機運が高まっており、こうした意識の高まりに応える施策とも捉えています。

2 中長期的な人口減少による需要の確保

中長期的に人口が減少していく国内市場においては、新たに建物を建築するよりも、元ある建物を活かし使い続けるリニューアルの需要が確実に高まっております。また、昨今の物価上昇の影響もあり、建物を解体・新築するよりもコスト抑制が可能なリニューアルにおける需要が高まっており、その需要を確保したいと考えています。

3 収益性の確保

リニューアル工事は新築と比べ短工期である中、お客さまの要望に応じて建物の利用を継続しながら工事を進捗させるなどの施工には高い難易度が伴います。また、施工途中に生じる仕様変更などにも柔軟に対応すべくさまざまな技術や提案によりコスト削減にも貢献できるため、新築物件に比べ収益性が高い傾向にあります。さらには、環境配慮型技術の提案など、付加価値の高いリニューアル提案も収益性向上に寄与しております。

当社の優位性 1 案件サイズ

当社が主に取り組むリニューアル工事の規模は、大手が扱わない手頃なサイズの案件が多く、中堅ゼネコンとして柔軟な対応力を持つ当社にとっては、受注機会の広がりにつながる領域であると考えています。

当社の優位性 2 技術力・対応力

●技術研究所を保有

リニューアルに資する多様な技術力を背景とした対応が可能です。

●高い現場力（判断力と、状況に応じた柔軟な対応力）

既存建物や仕上げ材などを撤去・解体していく過程では、図面や事前調査では把握しきれない想定外の状況が発生することも少なくありません。そのため、現場の状況を的確に見極める判断力と、状況に応じた柔軟な対応力が求められます。当社はリニューアル専業会社ではなく総合建設業である強みを活かし、仕上げに限らず構造に関する知見も踏まえた総合的な視点から最適な対応を行うことが可能です。これにより、確実性の高い施工を実現しています。

●特有の技術やノウハウの蓄積

リニューアルは建物利用者が建物を利用しながら施工をする“居ながら工事”となるケースも多いため、特有の技術やノウハウが求められる場面が多々あります。例えば、建物外周部のみから補強を行う構法の採用や、建物利用者に合わせた工程の細分化、さらには騒音・粉塵対策など、利用者への影響を最小限に抑えた施工を実現しています。

当社の優位性 3 付加価値の高い提案

●安全・安心技術で建物を長寿命化

淺沼組独自の調査・診断技術で建物の寿命や耐震性を分析。そのデータをもとにリニューアルを計画することで、建物の安全性を高め、寿命を延長し、資産価値を高めます。

●空間ヘルスケア技術で生産性を高める

当社がコーディネートする空間ヘルスケア技術を活用することで、建物で過ごす人々の快適性を高め生産性や創造性の向上が期待できます。また、これらの取り組みにより、WELLなどの認証を取得することで、建物の価値向上のみでなく、企業イメージの向上にもつながります。

●脱炭素・循環型技術で価値向上

自然素材の活用や、環境に配慮した資材を活用するなど、「よい循環」を生み出すリニューアルを提案します。リニューアルを通してSDGsや脱炭素のみならず、ESG経営や健康経営にも貢献し、企業価値の向上にも寄与します。

●お客さまに寄り添うパートナーへ

当社が総合建設会社として培ってきた技術やノウハウを活かし、調査・診断、企画・設計、施工、維持管理まで建物ライフサイクルに寄り添ったトータルなサポートを提供し、建物の価値を守り、高めます。

● 日本一の富士山の麓で、日本一の図書館を創る

御殿場市立図書館 ［ 静岡県御殿場市 ］

御殿場市の旧図書館はここ最近では施設の老朽化、蔵書・資料の増大によるスペースの不足、利用者の図書館ニーズの多様化への対応が強く求められるようになってきました。そこで「郷土を知り、学びを育み、相互に繋がる図書館」として、郷土資料館を複合化した魅力あふれる新図書館が整備されることになりました。設計基本コンセプトは、風土と共にあった御殿場の伝統的な古民家の特徴を取り入れ、訪れるすべての人をやさしく包み、知り・学び・つながる場としています。外部屋根フォルムは御殿場市誕生の旧６町村を象徴とした六角形の箱棟デザインで、かつ、富士山の稜線になじむ緩やかなものになっており、景観との調和に配慮されています。内部空間は自然採光を取り入れた明るく開放的な大空間の下に、すのこ天井、羽目板壁などの御殿場の特徴を取り入れた「コマ」を点在させており、多様な活動の場を設けることができるものになっています。

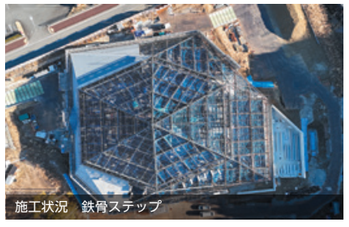
建物概要

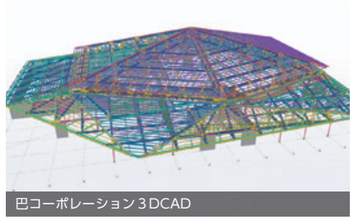
発注者	：御殿場市
設計	：久米・蒼設計共同企業体
施工地	：静岡県御殿場市萩原957番地の1
構造／規模	：混構造（RC＋S造）／地上２階建
延床面積	：4,298.12m^2
最高高さ	：17.07m
最大スパン長さ	：60.4m（束材間）


東面上空より外観


一般開架


2階公開書庫より1階を望む


施工状況　鉄骨ステップ


巴コーポレーション３DCAD


スーパーアンカーフレームと名付けたアンカー施工状況

所長からのコメント



石川 学

今回において一般建物と比較し難易度が高い工事は、鉄骨工事、屋根工事、木工事でありました。特に鉄骨工事はまずコンクリート壁の天端に非常に細かい間隔で多数のアンカーボルトを先行して仕込む設計であり、饅頭シロもゼロミリを要求されているものでした。関係者全員で頭をひねり検討した結果、壁躯体内部に鉄骨で仮設の柱を埋め込み、アンカーボルトを先行して上から吊り下げる手法しかないと考えました。そして施工誤差ゼロに近いアンカーセットを成功することができました。次に大空間の鉄骨製作では、Sグレード工場である鉄骨業者による3DCADを利用して屋根、内装、電気設備、機械設備含む全ての納まりを事前に検討し、対応しました。鉄骨自体も一本一本トラスの角度が異なり束材も複雑でありましたが、データの三次元モデルをそのまま活用して原寸大の模型をつくり、丁寧に製作していきました。大空間の建て方も一苦労でして、ベントと言われる仮設柱を組み立てつつ、それを支えに慎重に建方を行っていきました。細かな工程を各ステップに分けて日時を計画通り厳守しながら、屋根部材全てが六角形に閉じるのを待ってようやく箱棟全体を支えるベントを解体することができるものでした。また、構造設計者含む鉄骨関係者と分科会を通して検証している施工時キャンバーという沈み値（むくり）も計算に近い結果の数字となり、良い仕事とすることができました。

当社の竣工引渡し後、別途外構工事、旧図書館からの図書の引越しなどを経て、令和8年7月19日（日曜日）開館となりました。

最後に今回竣工の仕事は御殿場市さま、設計監理者さま含め多くの方が、完成した屋根の形状や開放的な内部空間などを見て喜んでくれています。この建物が御殿場市民をはじめ多くの利用者さまに明るく楽しくつながる場として使っていただけることを心より願っています。

過去実績を最大限活かした設計施工大型物流倉庫

DPL千葉レールゲート ［ 千葉県 ］

本施設は東京都心から約30km圏内に位置し、複数の幹線道路へのアクセスに優れた立地にあります。耐震鉄骨造地上4階建てで、各階接車が可能な2ランプ方式を採用しています。また、CASBEE建築Aランク、BELS評価☆☆☆☆☆、ZEB認証を取得した環境配慮型のマルチテナント倉庫であります。

施工条件としては、JR京葉線に隣接し、桁行方向345m（30スパン、梁間方向87m）という長大な建物でありながら、工期19ヶ月という短工期のプロジェクトでした。

工期内完成の重要ポイントとして、以下の2点を掲げ、施工計画の立案から実施工まで一貫して取り組みました。

①桁行345mを2分割工区とし主要協力会社を2社以上選定。2工区同時進捗する施工体制を確立。受注段階でマスター工程を作成し、協力会社の山積みをヒアリングしたうえで早期内定を図り、労務および資材の確保に努めました。また、搬入出車両の錯綜を防ぐため、着工前より行政との協議を行い、前面道路からの進入口を計5カ所設けることで施工動線を確保しました。

②ランプウェイを先行施工し、各階への資機材搬送効率を向上。躯体工事から仕上工事に至るまで各工程での動線を確保し、荷さばきの省力化を図りました。本体鉄骨建方中の床コンクリート打設時には、ポンプ車や生コン車を各階に接車配置でき、施工ヤードの有効活用にも寄与しました。

さらに、工期厳守に不可欠な各種製作図の承認においては、過去のDPL物件の図面データ（協力会社との検討資料を含む）を活用し、承認遅延の防止に努めました。

また「長大建物における温度変化に配慮した品質確保」を重点管理項目とし、設計施工の特性を活かして設計部・建築部・品質管理室・技術研究所が連携し、各種検証を実施しました。

具体的には、コンクリートの長さ変化試験に基づく床収縮帯の設定、1階土間床へのCCB工法（クラックコントロールバー工法）の採用、外気温中立期での鉄骨本ボルト締付施工、屋根および最上階外壁へのエキスパンションジョイント採用などを実施しました。

その他の施工上の工夫として、基礎型枠への鋼製型枠の採用による省力化、および重機動線（クローラーなど）を考慮した鉄骨建方の逃げ順序計画と、それに伴う基礎梁配置の最適化（後施工基礎梁の最小化）などが挙げられます。

建物概要

発注者　：千葉貨物施設開発特定目的会社
施工地　：千葉県千葉市美浜区
構造／規模：耐震鉄骨造／地上4階建
敷地面積　：48,539.02m²
建築面積　：29,118.64m²
延床面積　：113,831.83m²


外観北西面


カフェテリア


車路

所長からのコメント


中田 哲也

当該物件は桁行長さが345m、梁間長さ87mという長大な倉庫で、この物件規模を19ヶ月の工期内に竣工させることができるか正直不安もありました。しかし345mの桁行方向を2分割し主要協力会社を2社以上選定したのですが、各社の協力を得て両工区とも躯体、仕上げとも遅延なくほぼ工程通りに進捗し、無事に竣工を迎えることができました。また設計施工物件である強みを最大限に活用し、営業部、設計部、建築部、技術研究所と連携し1階土間CCB工法をはじめとして多くの技術提案をし、品質確保、および出来栄えでも施主からも高い評価を受けることができました。改めて関係各位には感謝いたします。

事業の概況

土木事業

取締役 常務執行役員 土木事業本部長 **寺井 到**



中期3ヵ年計画（2024-2026）の2年目にあたる2025年度は、特に「創業140年（2032.1.20）の土木事業本部のありたい姿検討委員会」を毎月開催し、各部門長たちがさまざまな課題解決に向けた活発な議論を展開しました。結果、そこから生まれた対策案はすぐさま中期3ヵ年計画の新たな具体的な取り組みとして追加し実行に移すとともに、効果も確認する事ができました。なかでも土木独自のリクルート活動である「新卒採用」「キャリア採用」「離職防止」については、大きく前進する事となりました。

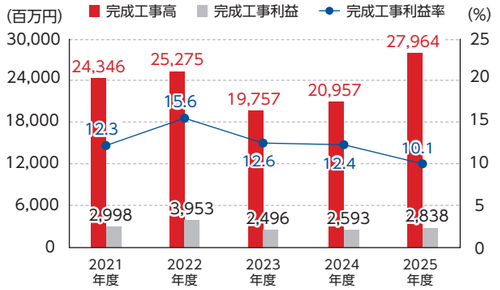
土木事業本部部門が担うべき役割である良質なインフラを提供し、国民の安全、安心な暮らしを実現する事をしっかりと果たし、全てのステークホルダーから信頼信用される会社であり続ける事を目指してまいります。

事業概要

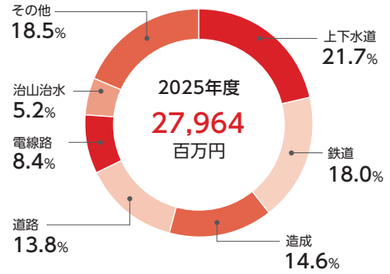
近年、自然災害の激甚化・頻発化およびインフラ老朽化への対応が全国的な課題となる中、国土強靭化、防災・減災、インフラメンテナンスに向けて、河川・道路・上下水道などの持続可能な社会基盤の整備に取り組んでいます。また、2011年東日本大震災および2024年能登半島地震での被災地支援に取り組み、除染事業の継続並びに復興関連事業への参画など、地域の早期復旧・復興に貢献しています。災害対応で培った技術力と機動力を活かし、将来発生が懸念される大規模自然災害に備えた強靭な国土づくりに貢献していきます。

民間においては、鉄道高架橋の耐震補強、連続立体交差化などの整備事業、電力エネルギー分野における管路整備事業、土地の有効利用を目的とした新規開発事業を積極的に推進しています。

● 完成工事高・完成工事利益（率）（単体）



● 完成工事高 用途別内訳（単体）



中期3ヵ年計画の主な施策

国内コア事業の強化
- 施工と受注のバランスを見据えた受注戦略
- 技術提案力・積算力の強化
- 作業所支援体制の強化
- 次の受注につながる工事成績評定点の向上

人材の獲得・確保・育成
- 土木独自のリクルート活動（新卒採用・キャリア採用・離職防止）の強化推進
- 若手・中堅技術者の積極的な育成と抜擢
- 作業所4週8閉所の定着

DX推進
- DXおよび新技術を活用した技術力の強化
- 技術研究所土木技術研究Gと連携した技術開発の強化推進

環境・社会への貢献
- 脱炭素化技術の積極的な活用推進
- 森林破壊ゼロに向けた取り組みの推進

新しい街づくりの基盤となる造成工事

八幡インター南土地区画整理事業および京田辺松井インター西土地区画整理事業にかかる造成工事

当プロジェクトは、第2京阪道路と建設中の新名神高速道路が交差する八幡京田辺ジャンクションの南西隣接地という立地環境において、広域幹線道路の結節点となる立地特性を活かした新たな都市機能を創出する街づくりを目標とし施工した土地区画整理事業です。また、八幡市区域9.9haと京田辺市区域2.5haの二市にまたがる全国的にも例の少ない事業でした。

当社は2013年準備組合設立時より土地区画整理事業の共同業務代行者（京阪電鉄不動産（株）・（株）オオバ・（株）淺沼組）として参画し、土地区画整理組合さま、共同業務代行者さまと共に、関係官庁、近隣関係者との調整を行いながら造成工事を施工しました。事業としては13年の期間を要し、2022年4月工事着工、2024年7月工事竣工、2025年組合解散認可、2026年清算結了報告を経て終結しました。

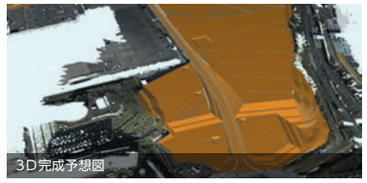
工事内容としては、切盛土工事、地盤改良工事、雨水排水工事、汚水排水工事、道路工事、調整池工事、公園工事など、多岐にわたる工事でした。なかでも既設雨水管へ接合する推進工事では、隣接する大型ホームセンターに出入りする関係者やお客さまの車両および歩行の通行に影響をおよぼす恐れがあったため、当初は閉店後の夜間工事で計画されていました。しかし、夜間工事の場合、コストアップや生産性の低下、施工管理者の増員などの課題が表面化しました。そこで、ホームセンターへの迂回路を区画整理区域内に設け昼間施工を可能とさせました。また、土工事においてはICT施工を全面的に活用し、測量および手待ちを減少させ生産性向上を図りました。

事業関係者が一体となり、近隣の大型商業施設、病院、近隣住民への配慮を最優先で心がけ工期内に無事故で竣工を迎えることができました。この造成工事で築いた基盤が地域の発展と新しい街づくりを力強く支えていくことを期待しています。

工事概要

発注者　：八幡インター南土地区画整理組合および
　　京田辺松井インター西土地区画整理組合
施工地　：京都府八幡市および京田辺市
施工面積：12.4 ha




3D完成予想図


工事状況


工事着手前

所長からのコメント

本工事は、土地区画整理組合さまおよび共同業務代行者であった京阪電鉄不動産さま・オオバさまのご協力により、無事故で竣工することができ工事を通して信頼関係を一層深めることができました。

また、八幡市と京田辺市の二市にまたがる事業のため関係諸官庁との調整において苦労しましたが、関係者皆さまから多大なるご協力をいただきましたことに感謝いたします。なお、区画整理事業ということもあり、工事途中でさまざまな変更も生じましたが、業務代行者内で議論を重ね工期内で竣工しました。これも作業所職員と協力会社が一体となって取り組んだ結果であると感じております。若手職員には、このような大規模な造成工事で培った経験を今後の業務に活かしてほしいと願います。



永井 庸之

事業の概況

海外事業

戦略企画本部 海外事業部長　**上條 真吾**



海外事業50周年という大きな節目を迎えた今、私たちはこれまで培ってきた技術力と信頼を礎に、グアム事業の安定的な発展とシンガポール事業のさらなる成長を追求してまいります。2026年に受注したグアムのチャータースクール整備事業については、地域社会に貢献する良質な教育施設として確実に完成・引渡しを行うとともに、シンガポールにおいては3社体制の総合力を発揮し、確固たる収益基盤の構築を進めてまいります。また、海外子会社で働くローカル社員一人ひとりの幸福とウェルビーイングの向上を大切にし、多様な人材が活躍できる組織づくりにも取り組んでまいります。そして、変化する市場環境に柔軟に対応しながら、海外事業を淺沼組グループの持続的な成長を支える重要な柱として発展させるべく、全員一丸となって挑戦を続けてまいります。

事業紹介

名称	所在国	形態	事業	従業員	売上（百万円）
Asanuma Corporation グアム営業所	アメリカ領 グアム島	営業所 (1976年)	建築土木請負	7名	217
Singapore Paints & Contractor Pte. Ltd. (SPC)	シンガポール	子会社 (2018年)	外壁再塗装工事・公団修繕工事 他	218名	2,896
Evergreen Engineering & Construction Pte. Ltd. (EVG)	シンガポール	子会社 (2022年)	電気・機械設備工事、建築工事、ビルメンテナンス	316名	12,969
T3 International Pte. Ltd. (T3)	シンガポール	子会社 (2026年)	外壁再塗装工事・新築内装塗装工事 他	126名	2,033

上記数値はシンガポールは2025年12月末時点、グアムは2025年3月31日時点


EVG 2025集合写真


グアム営業所写真

主な実績

EVG社完成工事



工事概要

ST Logistic社
Existing warehouse upgrade works
大型倉庫改修工事

主たる改修：受電設備、消防設備、内外装建築
施工面積：35,500m²（RC5階建）

SPC社完成工事





工事概要

Thomson Three
再塗装工事

工期　：2025年5月～2025年10月

中期3ヵ年計画の主な施策

リニューアル事業の強化
- ASEAN地域のリニューアル事業の強化

人材の獲得・確保・育成
- 海外勤務要員の確保および育成

ガバナンス・コンプライアンス・リスク管理の強化
- 海外子会社・拠点の業績および資金管理

Technology Development

事業の概況

技術開発



戦略企画本部 技術研究所長　**山﨑 順二**

2026年度までの中期3ヵ年計画の注力テーマに基づき、コスト競争力強化や合理化につながる技術開発として、建築分野では、鉄骨構造物の合理化設計手法および制振技術の開発、建物振動特性の実測把握手法とモニタリング技術の開発、作業所での省力化・安全性向上と環境配慮に資する施工技術に関する実験研究、土木分野では施工省力化や品質管理のためのDX技術について研究開発を推進しています。

さらに、リニューアル(ReQuality)強化に資する技術として、RC建物の劣化診断技術の高度化研究、温熱・騒音など環境シミュレーション技術開発、建設発生土の活用に関する研究開発、低炭素化および省エネ化に貢献できる技術など、カーボンニュートラルに資する技術開発にも継続的に取り組んでいます。加えて、アップフロントカーボンの低減を意図した改修時のデザイン提案、素材のリユース・リサイクルなど環境配慮に資する技術開発、ZEB化技術、空間改善効果の定量的な検証に関する研究開発を推進しています。

技術研究所では、創業理念である『和の精神』『誠意・熱意・創意』のもと、誠実なモノづくりに専心し、社会の安全・安心・快適の増進に寄与することを基本理念として、変化する社会や顧客ニーズに対応できる満足度の高い技術開発を継続的に推進していく所存です。

技術研究所概要

技術研究所は、総合建設業のなかでも関西圏に拠点を置く数少ない存在であり、主として施工時の低炭素化および資源循環に資する技術開発を推進し、建設構造物の付加価値を創出するとともに、安全・安心かつ脱炭素化による持続可能な未来社会の実現に貢献しています。

2019年に既存本館棟の全面改修を行うとともにANNEX棟を新設し、先進的な研究開発や社員の研修施設として活用しています。2021年4月、リニューアル事業の旗印として「ReQuality」ブランドを立ち上げ、技術研究所が独自開発した各種技術を名古屋支店改修工事にて実装しました。現場発生土や木々など自然素材を活用することで、他に類を見ない先進的な環境配慮型および空間改善型のリニューアルの手法を提案しています。



技術研究所　全景


展示室


研究室

中期3ヵ年計画の主な施策

国内コア事業の強化	● コスト競争力強化に基づく合理的設計手法の開発と実装 ● 施工品質向上に資する技術支援および技術開発
リニューアル事業の強化	● ReQuality推進のためのGOOD CYCLE DESIGN提案と実装 ● ADVANCE技術など自然素材活用技術の整備と低コスト化検証 ● 独自技術である高度な劣化診断システムによる建物調査実施と高度化 ● 健康科学技術(音・自然素材が人体におよぼす影響)の検証
DX推進	● 施工管理合理化のためのITツールの実装 ● 省力化施工技術の展開
人材の獲得・確保・育成	● 高度な構造設計手法の社内展開と技術伝承 ● コンテンツを利用した社員教育と継続研修の実施
環境・社会への貢献	● 環境配慮技術の継続開発と実装 ● 環境配慮型コンクリートや自然素材を用いた建築材料の開発と活用 ● 現場発生土や構造部材のリユースおよびアップサイクル技術の開発 ● 環境現場事務所(Wellness Container®)の全店展開

技術紹介

● 建物長寿命化技術

免震・制振

免震構造や制振構造など、各種のデバイスを活用することによって効果的に地震・強風に耐える建物の研究を進めるとともに、地震直後に建物の状態を把握する地震モニタリングシステムを開発しています。


制振ダンパー



地震モニタリングシステム

調査診断技術

建物の改修計画時や火災などの後には、建物の健全性の調査・寿命予測が必要となります。コア採取など建物に大きなキズをつけず、コンクリートの部位・部材ごとに劣化の程度を調査します。この迅速かつ詳細な調査により構造体の耐用年数を推定し、ReQuality ADVANCE技術の適用とともに、所有者が想定する供用期間に応じたムダのない改修工法を提案しています。


ダブルチャンバー法での測定状況

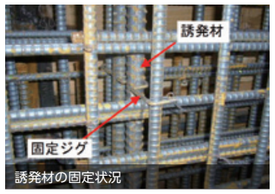

ドリル削孔法での測定状況

CCB工法

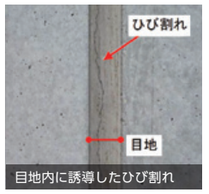
CCB(Crack Control Bar)工法とは、鉄筋コンクリート壁および床の収縮ひび割れ発生位置を制御する工法で、確実に誘発目地内へひび割れを誘導させると同時に、目地部以外のひび割れをほとんど発生させないことを可能とするものです。本工法の特長は、目地位置でのコンクリート比率を減らす手段として、目地に沿って太径異形鉄筋のひび割れ誘発材と壁鉄筋または床鉄筋を、専用の固定ジグを用いて一直線上に配置することで目地部へのひび割れ誘導率を飛躍的に高める点にあります。2025年度に技術審査証明を取得し、物流倉庫の床コンクリートのひび割れを制御し、建物の耐久性と美観性の向上にも貢献しています。



平面図



誘発材の固定状況



目地内に誘導したひび割れ

環境配慮技術

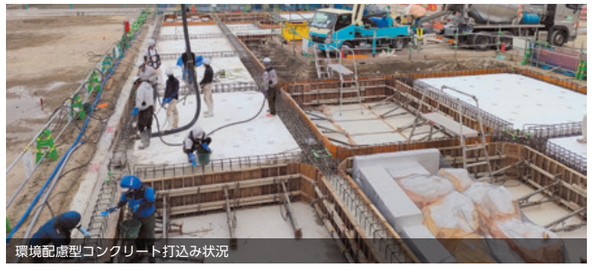
自然素材の活用

土や木材などの自然素材を積極的に現代の建築に取り入れていくことで、脱炭素、SDGsへの貢献を図るだけでなく、デザイン性や付加価値を向上できるよう、デザインのみならずプロダクトを含めた研究開発を推進しています。名古屋支店で実装した建設発生土を活用した「還土(かんつち)ブロック:特許第7676190」の実装以降、土と木を複合させた「立体木摺土壁:特許第7723873」を開発し店舗内装に展開するなど、独自性を有する技術開発を推進しています。


立体木摺土壁

環境配慮型コンクリート

低炭素化や資源循環に貢献する環境配慮型コンクリートについて、例えば、他産業の副産物である高炉スラグ微粉末やフライアッシュを有効利用し、CO_2排出量を40～60％削減できる環境配慮型コンクリートを、建築作業所および土木作業所にて実装し、ライフサイクルCO_2の低減に貢献しています。さらに、二酸化炭素を吸収するコンクリートの研究開発(CPコンクリート:NEDO GI基金事業)を共同開発により推進しています。


環境配慮型コンクリート打込み状況

特許紹介

2025年度における特許の出願数は8件(内、分割出願1件)、取得数は6件です。

上記を合わせ、2026年3月末時点までに保有している特許数は28件です。また、商標・意匠の保有数は23件あります。これらのなかでも、名古屋支店にて展開・実装した「土」関連技術では、以下の5件の特許を取得しています。さらにその後に開発した「立体木摺土壁」では2件の特許を取得しています。

立体木摺土壁®(特許第7723873)について

立体木摺土壁®は、日本古来の伝統家屋の木摺壁を立体的に配置して土と木を積層した土壁であり、乾式施工を可能としました。土の吸放湿性により屋内の空気環境を調えること、また、内装材としての不燃性を有していることを確認しました。

● 土活用技術に関する主な特許

特許番号	名称	特許の概要	登録日
特許第 7676190	版築ブロック	還土ブロックの作成方法。材料、配合、型枠、補強材など	2025/5/2
特許第 7856813			2026/4/27
特許第 7676191	版築壁およびその施工方法	還土ブロック(イモ目地)と内部補強鉄骨を用いた壁の作成方法など	2025/5/2
特許第 7741678	版築構造物	アンカーピンを内蔵した薄型の版築構造物の構成方法	2025/9/9
特許第 7839624	免震壁構造物	建物内の土壁仕上げ部の免震化構法	2026/3/25
特許第 7723873	立体木摺土壁	土と木を積層した土壁(立体木摺土壁)の製造方法、不燃化手法など	2025/8/5

2025年度のトピックス

リニューアルブランド「ReQuality」のADVANCE技術

広島支店、北海道支店のエントランスを、独自のリニューアルブランド「ReQuality」のADVANCE技術を用いて改修しました。2026年度は東北・九州の両支店のエントランスなどの改修を予定しています。

より詳しい内容は45ページのGOOD CYCLE PROJECT内をご覧ください。


北海道支店エントランス


広島支店エントランス

健康現場事務所「Wellness Container®」を展開しています

工事現場の事務所として設置するコンテナハウスの内装に、自然素材や自然音などを手軽に取り入れ、温かみのある心地良い空間へと生まれ変わらせる「Wellness Container®」を展開しています。自然素材(土・木・植物)を用いた内装は、現場職員や事業主さまにもご参加いただけるワークショップを通じて創出しています。2026年度は健康現場事務所での抗疲労効果や健康増進効果に関する定量的な評価を実施します。


執務室


打合せ・会議室

技術フォーラム

建設技術の向上と人材育成、および施工現場の生産性向上を目的に実施していた「技術発表会」と「協力会社協働 生産性向上策発表会」を2025年度から統合し、「技術フォーラム」と改名しました。技術フォーラムは、大阪・東京両本店を拠点とし、全国の本支店をWebハイブリッド形式で接続した同時開催としました。2部門の発表総数は、技術レポート部門5件、協力会社協働 創意工夫部門9件の計14件で、優れた発表者(上位3件)には「特別賞(優秀発表賞)」を授与するなど、技術者のプレゼンテーション力強化の推進を図っています。

第1回 技術フォーラム2025

【技術レポート 部門】

- 鉄骨建て方クレーン走路のあと施工基礎の鋼製型枠化(優秀発表賞)
- シールド機カッターヘッド補修
- 予定価格が超過する工事の積算および見積の考え方
- BIMを活用した擁壁の影響範囲と地盤改良杭の干渉に対する変更提案
- Power Automate for Desktopを使用した業務自動化(優秀発表賞)

【協力会社協働 創意工夫 部門】

- デジタルサイネージによる業務効率化
- 置き構台の活用
- 狭隘地におけるリフトローラー工法を用いたPC擁壁の施工(優秀発表賞)
- 点群測定による既設建物の測量・作図
- BIMを活用した天井内メンテルートの検証・説明
- QRコードによる匿名意見収集
- ARツールを活用した杭頭補強筋墨出し
- 移動昇降式足場(リフトクライマー)
- シールド工法2次履工スチールフォーム2基施工への取り組み


技術フォーラム2025の様子